

げんこうぼうるい 元寇防塁

所在地/福岡市
指定/史跡



元寇防塁 (生の松原)



防塁を守る日本の武士 (蒙古襲来絵詞)
(宮内庁三の丸尚蔵館所蔵)

げんこうぼうるい はかたわん えんがん
元寇防塁は、福岡市の博多湾の沿岸を
中心に、全長約 20km にもわたって築かれ
た鎌倉時代後期の石垣です。

1274 (文永11) 年、中国大陸、朝鮮半島を支配下におさめた元 (※) の皇帝、フビライ=ハンは、日本を攻めるため、大軍を博多湾に送り込みます (文永の役)。一騎打ちが主流の当時の日本の武士たちは、元の大軍の一斉攻撃や、火薬を用いた「てつほう」などの未知の武器にあつとう 圧倒され、元軍の上陸を許し、大きな損害を受けました。元軍が引きあげた後、再び攻めてくることに備え、幕府が九州の武士たちに命じて造らせたのが「元寇防塁」でした。そのため、1281 (弘安4) 年に攻めてきた元軍は、高さ 3m の防塁の石の壁と、日本の武士たちの奮戦によって博多湾上陸ができず、さら

に台風のために元軍のほとんどの船は海に沈んでしまったので元軍は引きあげたとされています。その後、元軍が再び日本に攻めてくることはありませんでした。

現在も、いまづ いき まつばら にしじん めいのはま はこざき
今津、生の松原、西新、姪浜、博多、箱崎など、福岡市内のいくつかの地点で
当時の石垣を見ることができます。

※元：当時の中国。

【もっとくわしく調べたい】

○福岡市博物館 福岡県福岡市早良区百道浜 3 丁目 1-1 TEL 092-845-5011

【元寇防塁に行きたい】

○生の松原地区元寇防塁 福岡県福岡市西区生の松原 1 丁目 22

○博多小学校 福岡市博多区奈良屋町 1 番 38 号